

イネ縞葉枯病に対する収穫後の防除対策について

生産者のみなさまへ

令和元年9月26日

イネ縞葉枯病を減らすため、 収穫後はすみやかに耕起をしましょう！

翌年のイネ縞葉枯病の発生を抑えるためには、
ウイルスを媒介するヒメトビウンカの生息密度を減らすことが重要です！！

- ひこばえ（再生イネ）はイネ縞葉枯ウイルスの伝染源や媒介虫であるヒメトビウンカの生息地となるため、収穫後はすみやかに水田の耕起をしましょう。
- ヒメトビウンカは水田畦畔や周辺の土手等のイネ科雑草で越冬するので、畦畔等の除草を徹底しましょう。

ヒメトビウンカ



成虫（雄）

成虫（雌）

幼虫

ひこばえ（再生イネ）の病徴（例）



今年1月に調査した県西地域における秋季
耕起の実施率は97%でした。
引き続き、地域全体でヒメトビウンカ防除
に取り組みましょう！



— 県西地域イネ縞葉枯病対策連絡協議会 —
【問合せ先】事務局：茨城県県西農林事務所
振興・環境室 農業振興課
TEL:0296-24-9169 FAX:0296-25-0018